

エスペラント —言語共同体の観点から—

東北大学名誉教授・仙台エスペラント会会長
後藤 斉

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/>

「エスペラントの日」記念講演
2021年6月20日

概要

エスペラントは「ザメンホフが考案した人工語」という側面から捉えられることが多いが、他の多くの「人工語」とは異なって、単なる案の域を脱して、それを使う一定規模の持続的集団—言語共同体—を形成し、さらに100年以上持続することができた。この類例のない社会現象の観点からエスペラントを捉えることによって、エスペラントの意義を見直してみたい。

問題提起

- エスペラントは「ザメンホフが創った人工語」という側面から捉えられることが多い。エスペランティストの自己認識、広報、外部からの認識において。
- しかし、エスペラントの性質の一部しか伝えておらず、誤解や過小評価につながりかねない。「感情を伝えられるか?」「文学は可能か?」などの疑問が絶えない。
- エスペラントの社会性をより重視したい。使用者や使用場面の多様性、使用者間のつながり、130年以上にわたる使用実績の蓄積と現状、将来。
- 「ザメンホフの提唱から成立した国際語」「特定の民族に属さない橋渡し言語」など。

まえおき

立場 言語学研究者 エスペラント歴50年

それなりの知識や自分なりの深い経験はあるが、かなり特殊。また、限定的。

聴き手 幅広く、想定しにくい。エスペラント歴の浅い人を主に考えるが、...

エスペラント経験の様態は人によって違うので、あくまで、その部分は参考としてお聞きください。

私の主なエスペラント関係経歴

1971年 独習、のちJEIと仙台エスペラント会に入会

1970年代 全国合宿(5月)、林間学校(8月)など

1980年代 フランスでの学会参加、日韓セミナーなど

1982 国際語学研究セミナー(JEI主催、東京、同時通訳)

1987 エスペラント100周年記念世界大会(ワルシャワ)、

社会言語学シンポジウム(JEI主催、東京、発表・同時通訳)

1994 第79回世界大会(ソウル) エスペラント学会議

1998~2013 東京外国語大学でエスペラント集中講義

1999~2000 ロンドン大学客員研究員

2007 第92回世界大会(横浜) 大会大学学長

2015 第102回日本大会(仙台) 実行委員長

私のエスペラント関係著作

感想文・報告文、論考、発表、講演など。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/biblioj.html>

『エスペラント日本語辞典』(JEI, 2006) 編集副主幹 ⇒
『単語力から総合的な語学力へ ―エスペラント応用語彙論―』(JEI, 2015)

『日本エスペラント運動人名事典』(ひつじ書房, 2013) 柴田巖と共編 ⇒『人物でたどるエスペラント文化史』(JEI, 2015)

En La Mondon Venis Nova Lingvo. Festlibro Por La 75-Jariĝo de Ulrich Lins (Mondial, 2018)
José Antonio Vergara, Kimura Goro-Christophと共編

1887年

- ・ザメンホフがエスペラント博士の筆名で『国際語』(1887)をワルシャワで出版(『第一書』)
ロシア語版、引き続き、ポーランド語、フランス語、ドイツ語、英語の各言語版

40ページ + 単語集 (約900語)

例文には手紙の例や「主の祈り」と

聖書の一節のほか、ハイネの詩の訳と

ザメンホフのオリジナルの詩



1887年以後

- ・ザメンホフ 反響への対応
- ・A. グラボフスキ プーシュキン『吹雪』E訳 (1888)
- ・La esperantisto誌 (1889-1895) ニュルンベルクにて刊行
- ・ニュルンベルク、モスクワ、ソフィアなどにエスペラント会

19世紀末から20世紀初頭

19世紀末 フランスを中心にヨーロッパ各地に

1904 カレー/ドーバーにて英仏両国のエスペランティストの会合

1905 フランス、ブローニュ・シュル・メールにて
第1回世界エスペラント大会、以後定例化。演説、討議、歌唱、演劇、雑談など。ブローニュ宣言採択

この頃までに**エスペラント言語共同体が成立**

その後 言語面

提唱者のザメンホフが言語のしくみの全体にわたって細かく規定したわけではない。言語の発展にはザメンホフ以外の人のが果たした貢献も大きい。その後も言語の規範を厳格に定めようとする動きはそれほど目立たず、むしろ言語使用者の創意と共同体による受容にゆだねられる部分が多かった。

言語としては、全体的な安定を保ちつつ、使用場面を広げながら、時代に適応した語彙を得て、文体と表現力を豊かにしていくことになる。

その後 社会面

世界大会は、**地理的な一体性のないエスペラント共同体にとって、エスペラントが実際に用いられる空間を作り出し、それを実体験できる機会としての意味が与えられた。**

エスペラントをより効果的なものにするために、さらに多くの試みを数世代にわたって積み重ねてきた。私の経験もその流れの中にある。

- ・書籍、定期刊行物の発行・流通（読者層の存在）
- ・規模や性格の異なる諸団体や大小の大会・シンポジウム・集会・セミナーほかの催し（参加者層の存在）
- ・人的接触や情報交換を活発にするための様々な仕組み

その後～現在へ

エスペラント言語共同体は、2度の世界大戦、冷戦体制とその崩壊など国際情勢の変化の荒波を受ける。ナチスやスターリン体制下では迫害を受けて、言語人口が著しく減り、勢いが削がれたことは否めない。

現在は、グローバル化および英語の「世界語」化が進展する中で、**言語の多様性を尊重した上での公平なコミュニケーションとしての意義**を見出そうとしている(?)。

実態調査

Peter G. Forster. *The Esperanto Movement*. The Hague: Mouton de Gruyter, 1981.

Nikola Rašić. *La rondo familia: sociologiaj esploroj en Esperantio*. Pisa: Edistudio, 1994.

Zbigniew Galor kaj Jukka Pietiläinen. *UEA en konscio de esperantistoj*. Dobřichovice: KAVA-PECH, 2015.

エスペラント言語共同体の特徴

- ・国や民族、地域という背景がない。地球上に散在(ディアスポラ)。
- ・第一言語話者(denaskulo)は例外的。
- ・成員の大部分は、ある程度長じてから自らの意思により選択して、第二言語以降として学習して習得した人である。
- ・語学力や共同体への参加・帰属意識の程度に大きなばらつきがある。

~~成員相互の共通点はあまり多くない。⇒多様性~~

エスペラント言語共同体の弱点

- ・規模が大きくない、新規参入者が少ない、高齢化。「多様性」の限界（ただし、個人で把握しきれないほど多様であることは事実）
- ・国や地域の基盤がなく、実態が見えにくい。先入観で判断し(され)がち（知るには努力が要る）
- ・語学力・帰属意識に大きな差。コアな成員と周辺の成員の乖離
- ・「世界語」としての英語には太刀打ちできない（ただし、国際語の別の在り方としてなら）

エスペラント言語共同体の強み

- ・多様性を前提として成り立っている。
- ・多くの成員は国際交流を志向して、自由意思により取り組んでいる。
- ・一般に自主性や相互協力精神、ボランティア精神に富んでいる。

コンピューターネットワークとの親和性

⇒ ネット時代に合った新しい層／使い方？

ネット上での使用の実態の例

ウェブサイトのリンク集

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/gothit-eo.html>

・電子図書館

bitoteko (スペインエスペラント連盟) リンク集も

Kolekto por Planlingvoj (オーストリア国立図書館)

・動画 <https://www.youtube.com/>

検索語例: Esperanto / prelego / vojaĝo / kulturo /
amikoj / interparolo / kanto / ueaviva / kongreso

・行事

Eventa Servo <https://eventaservo.org/>

まとめとして

エスペラントは、1887年に提唱された時点ではザメンホフの頭の中と40ページの小冊子の中にしか存在しませんでした。その後エスペラントは、使われることによって、人間同士が使う生きた言語へと成長を遂げました。このようにして、エスペラントは現在ではエスペランティストの意思と活動の中に存在しています。

後藤『単語力から総合的な語学力へ』

まとめとして

エスペランティストが母語を異にする相手との間で各自の思考や感情、それに事実などを伝えあう(そして、それによって人と人が意見を交換し、心を通わせ、あるいは共同作業を行う)という、**エスペラントを使って行われる言語活動の中にこそ、エスペラントの存在価値があります**。エスペランティスト自身がエスペラントを中途半端にしか使っていないのであれば、エスペラントには誰かを引きつける魅力などありえません。エスペラントが発展していくためには、その活動の質的な向上と幅の広がりが必要なのです。

後藤『単語力から総合的な語学力へ』

エスペラント —言語共同体の観点から—

ご清聴

ありがとうございました。